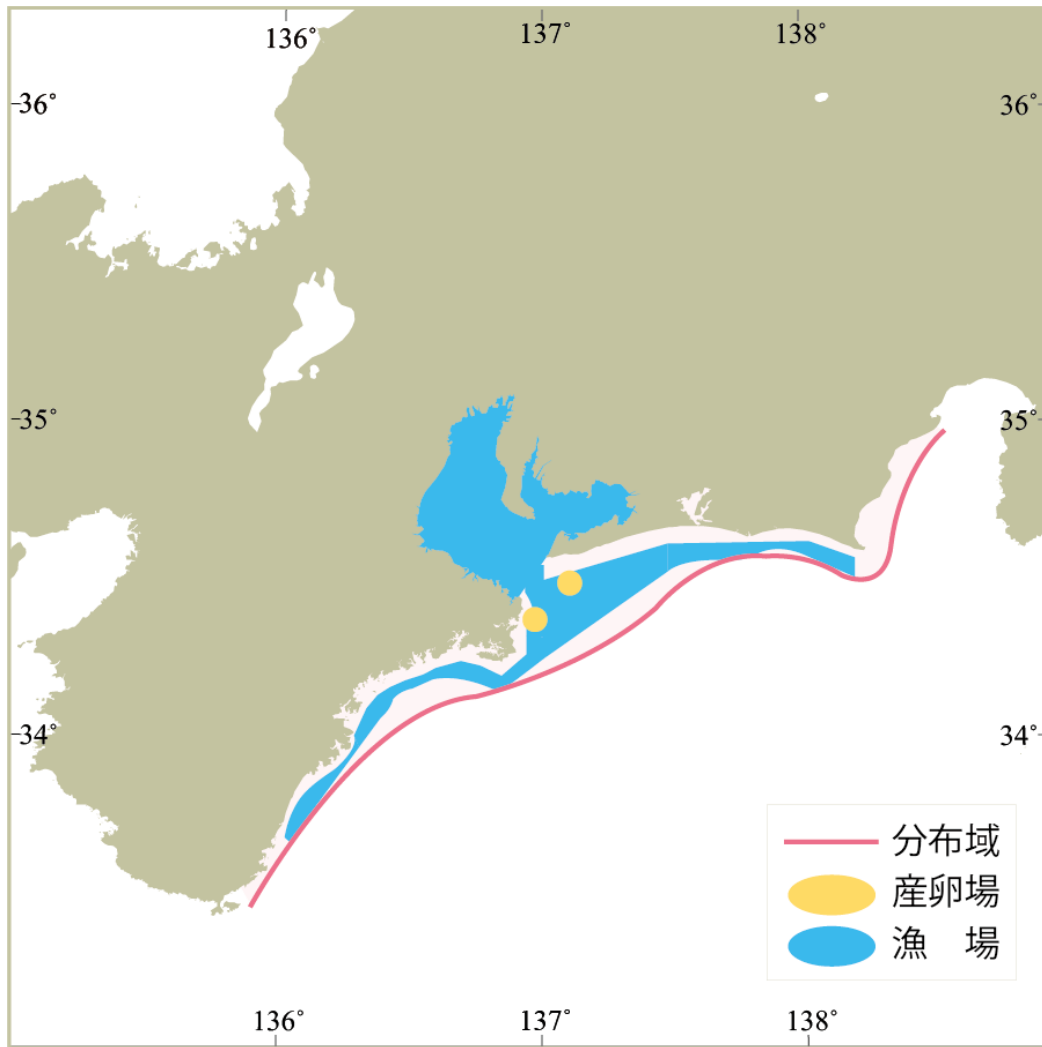




# トラフグ伊勢・三河湾系群 令和3年度資源評価結果

# 生物学的特性

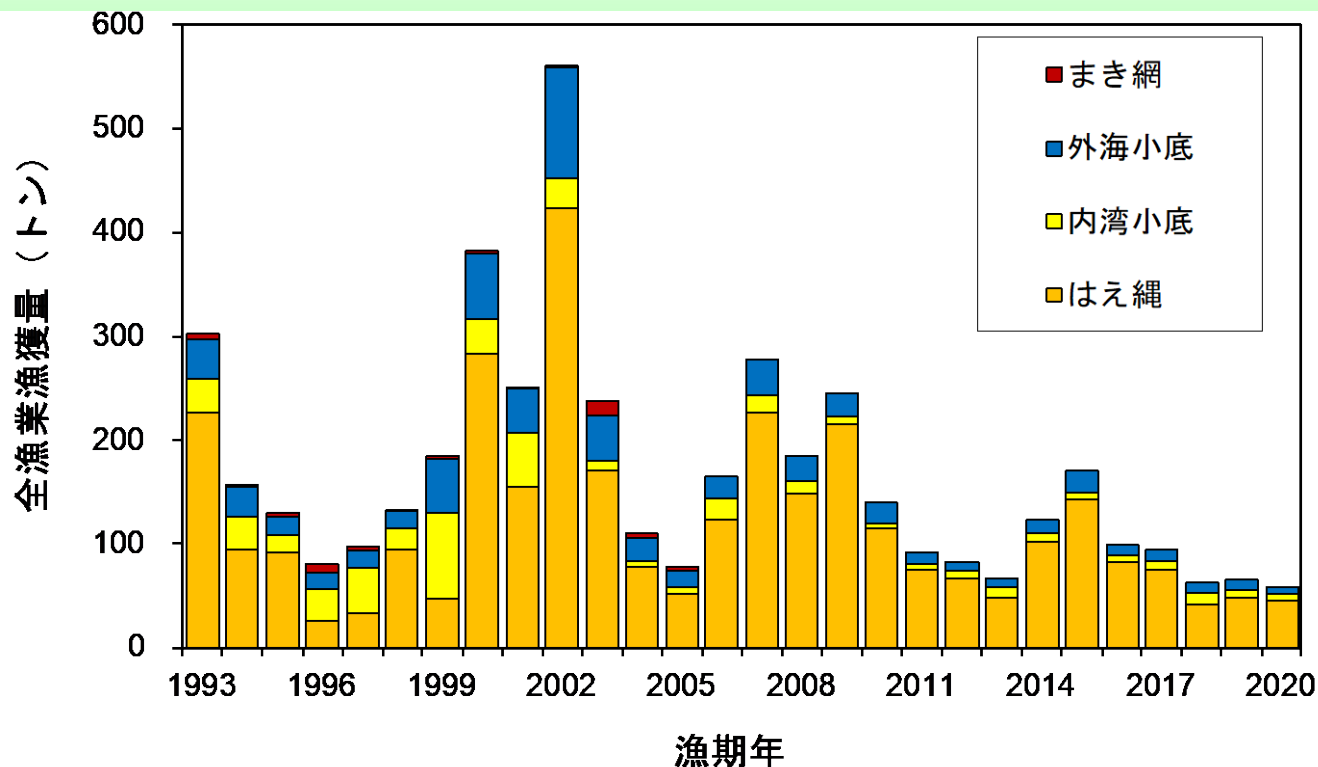


## 生物学的特性

- 寿命：10年以上
- 成熟開始年齢：雄2歳、雌3歳
- 産卵期・産卵場：4～5月、伊勢湾口
- 食性：仔魚後期までは動物プランクトン、稚魚期は端脚類、十脚類、多毛類、昆虫類。未成魚期はイワシ類、その他の幼魚や甲殻類、成魚期は甲殻類や魚類
- 捕食者：不明

- ・ 紀伊半島東岸から駿河湾沿岸域が主な生息海域

# 漁獲の動向



- 2020年漁期（4月～翌年3月）の漁獲量：58トン  
（2019年漁期：66トン）
- 2020年漁期漁業種内訳：外海小底が10%、内湾小底が10%、はえ縄が80%、まき網による漁獲は2006年漁期以降は自主規制されている
- 2020年漁期の種苗放流尾数48万尾、混入率58%、添加効率0.048

# 資源評価の流れ

2020年漁期までの年齢別・年別漁獲尾数、資源量指標値



2020年漁期までの年齢別・年別資源尾数、年齢別・年別漁獲係数



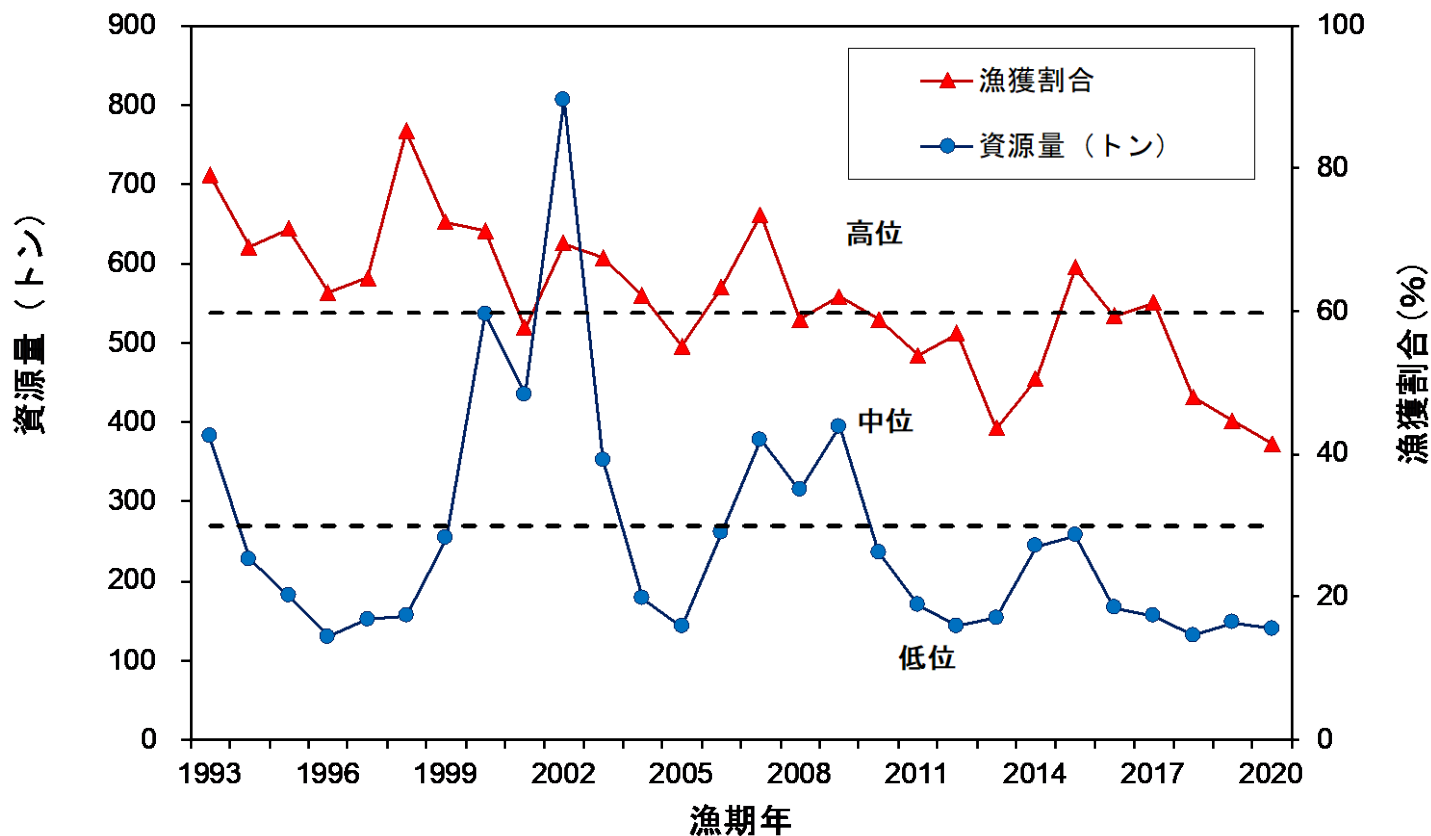
2021年漁期以降の年齢別・年別資源尾数、親魚量



2022年漁期のABC

- コホート解析
- 自然死亡係数は0.25を仮定
- 0歳天然魚資源量指標値および1歳魚資源量指標値を用いたチューニング
- 2021年漁期へ前進計算
- 2021年漁期の加入量は0歳天然魚資源量指標値から推定した天然魚加入尾数と2016～2020年漁期の5年間の放流魚加入尾数平均値の合計を仮定
- 2021年漁期の漁獲係数は2018～2020年漁期の3年間の単純平均値を仮定
- 2022年漁期以降へ前進計算
- 2022年漁期以降の加入量は一定とし、2017～2021年漁期（天然＋放流）の5年間の単純平均値を仮定
- 2022年漁期以降の漁獲係数は2018～2020年漁期の単純平均値の選択率におけるF20%SPRを仮定

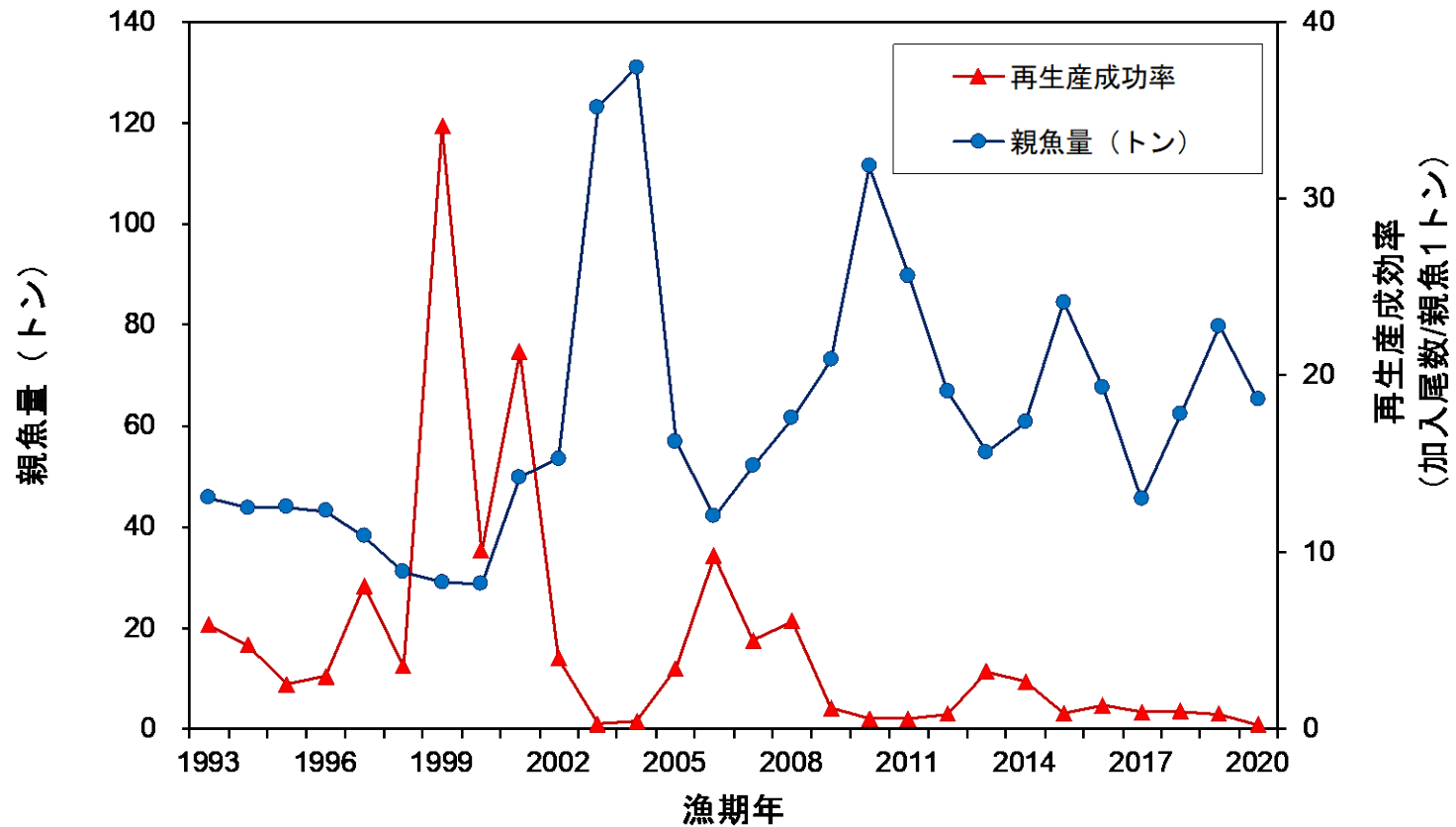
# 資源の動向①



※水準区分 低位／中位：269トン、中位／高位：537トン  
(過去最大の資源量806トンと0の間を3等分)

- 資源水準：2020年漁期の資源量140トンから「低位」
- 資源動向：直近5年間の資源量の推移から「横ばい」

## 資源の動向②



- 親魚量：2003～2004年漁期には100トンを上回ったが、2005年漁期以降は42～111トンの範囲で増減し、2020年漁期の親魚量は65トン
- 再生産成功率：海洋環境が強く影響すると推測される2009年漁期以降は極めて低い水準で推移

# 資源評価のまとめ

- 資源水準は低位、動向は横ばい
- 資源量指標値を考慮したコホート解析による資源量に基づいて資源状態を判断した

## 2022年漁期ABC

| 管理基準    | Target/Limit | 2022年漁期ABC<br>(トン) | 漁獲割合<br>(%) | F値<br>(現状のF値からの増減%) |
|---------|--------------|--------------------|-------------|---------------------|
| F20%SPR | Target       | 30                 | 28          | 0.27<br>(-43%)      |
|         | Limit        | 36                 | 30          | 0.34<br>(-28%)      |

- F20%SPR : 漁獲がなかった場合の20%の親魚量を取り残す  
漁獲圧